

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長氏名	奥 金実	生徒指導主事氏名	林 寛
-----	-----------	------	------	----------	-----

## 取組事例名 『縦割り活動』

## 取組のねらい『互いに支え合う活動』

- ・縦割りグループの仲間が、一緒に掃除したり食事をしたり遊んだりすることを通して、学級や学年の枠を超えたかわりを深める。
- ・下級生は、集団生活におけるルールやマナーについて上級生から学び、上級生は下級生のケアをする中で責任感を身につける。
- ・グループの担当者は、清掃活動等の時間を共に過ごすことで児童のいろいろな面を知り、後の生徒指導にいかす。

## 取組の具体的内容『いろいろな場面で』

## 1 縦割り掃除

赤・青・黄・緑それぞれ1～15の縦割り班を作り、掃除を分担して行う。縦割り班の人数は、それぞれ15人程度とする。前期（4～10月）と後期（11～3月）で編成替えをして、より多くの児童との触れ合いの機会が得られるようにする。清掃後の反省会の司会は、6年生のリーダーが担う。

## 2 1年生歓迎遠足

縦割り班を活用して、全校で同じ場所に遠足に行く。出発式から解散式までを児童会執行部の6年生が取り仕切る。全行程を縦割り班で並んで歩く。6年生は1年生と、5年生は2年生と、4年生は3年生と手をつないで歩く。食事やレクも縦割り班で活動する。



① 6年生の「いただきます」でいっせいに弁当を開く。② 新聞紙に何人乗れるか。上級生は下級生をおんぶして。

## 3 仲良し給食・仲良し遊び

前後期それぞれ1度ずつ実施する。お弁当給食に切り替えて、校内のいろいろな場所で食べる。昼休憩も引き続きグループで活動する。あらかじめリーダーが中心になって相談し決めていたレクや遊びを実施する。

## 4 マラソン週間

冬季に実施している。3分間を異学年の児童と一緒に走る。全校で走るには人数が多すぎるため、「本日は赤・青グループの日」といったように、縦割り班を基準にした実施スケジュールを組む。

### 取組の課題・創意工夫『自主性』

掃除については、なかなか主体的に動けていない実態もある。1・2年生があまり活動していなかったり、3・4年生がリーダーの指示に従わなかったりしている場面もないわけではない。また5・6年生の中にも、面倒そうな素振りを見せる児童もいる。

いろいろな取組を決定するのは児童自身であり、話し合いも重要となる。仲良し遊びの決定などでは、わがままな気持ちを抑え、みんなの意見を聞きながら決定していくプロセスを大切にしたい。

### 取組の成果（効果）『責任感』

いろいろな場面で縦割り活動を取り入れている本校では、特にリーダーの6年生は重い責任を負っている。リーダーの行動は、そのすべてが下級生の目に映っており、尊敬の念を抱かせる振る舞いをしなくてはならない。一部のリーダーには、そこまでの自覚をもてていない児童もいた。それでも、担当教職員の声かけや担任からのアプローチにより、徐々に責任感のある態度へと変容してきた。また、学級では素直に自分を表現できていない6年生が、縦割り班の中では、良きリーダーとして、下級生に対して優しい一面を見せている例もある。

### 今後の展開『感謝』

#### 6年生を送る会に向けたプレゼントづくり

3月1日の6年生を送る会は、各学年からの出し物を中心とした心温まるイベントである。その中の重要なプログラムに「1～5年生からのプレゼント渡し」がある。特別活動の時間を1時間使い、縦割り班の1年生から5年生が集まってメッセージ集を作る。次期リーダーとなる5年生が中心となって作業を行い、協力して6年生への感謝の気持ちをつづったメッセージ集を完成させる。表紙には、グループのみんなで集合した笑顔の写真が使われる。

### 他校へのアドバイス『楽しんで取り組む』

日常的には触れ合うことの少ない担当学年以外の児童の顔と性格がよくわかり、指導者としても楽しい出会いがある。このような児童理解の形も有意義なものだと思う。